

令和元年度

大学院生による授業評価結果報告書  
(後期分)

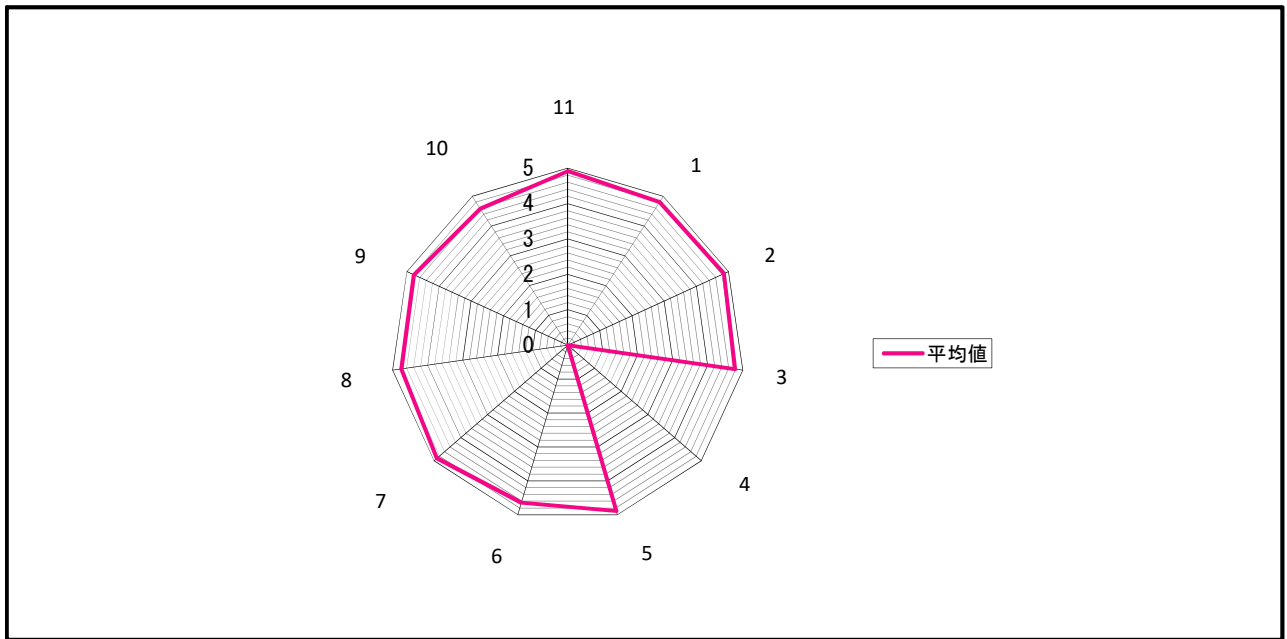
鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
2	心理臨床	M1AA020C	臨床心理学統計法	古川 洋和
3	心理臨床	M1AA060C	心の健康教育に関する理論と実践	吉井 健治,今田 雄三,小倉 正義,山崎 勝之,内田 香奈子
4	心理臨床	M1AA090C	臨床心理面接研究 I	吉井 健治,葛西 真記子
5	心理臨床	M1AA140E	臨床心理査定演習 II	今田 雄三,川西 智也
6	心理臨床	M1BA020E	心の発達・教育創造演習	山崎 勝之
7	心理臨床	M1BA040E	心理教育科学演習	内田 香奈子
8	心理臨床	M1BA050E	心理・教育科学測定・評価演習	山崎 勝之,内田 香奈子
9	心理臨床	M1BA060E	予防教育開発・実施演習	山崎 勝之,内田 香奈子
10	心理臨床	M1CA030E	障害心理学研究方法演習	田中 淳一,高橋 眞琴
11	心理臨床	M1CA040C	障害臨床学特論	田中 淳一,高橋 眞琴
12	現代教育課題総合	M1DA040C	現代教育人間論	太田 直也,谷村 千絵
13	現代教育課題総合	M1DA100E	人間と環境 I	田村 和之
14	現代教育課題総合	M1DA120E	人間とコミュニケーション I	谷村 千絵,金野 誠志
15	現代教育課題総合	M1DA130E	人間とコミュニケーション II	金野 誠志,谷村 千絵
16	グローバル教育	M1FA040E	国際教育演習	小澤 大成,石村 雅雄,近森 憲助
17	グローバル教育	M1HA030C	日本語語彙論	田中 大輝
18	グローバル教育	M1HA080E	日本語教育学演習	廣田 知子
19	グローバル教育	M1HA090E	日本語教育法演習（日本語教育グループ実習）	廣田 知子,田中 大輝
20	グローバル教育	M1HA140C	日本語Ⅲ	田中 大輝
21	グローバル教育	M1HA150C	日本語Ⅳ	廣田 知子
22	グローバル教育	M1HA160C	日本事情・日本文化	廣田 知子
23	グローバル教育	M1IA030E	言語コミュニケーション演習	眞野 美穂

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学統計法  
 評価実施日 令和2年1月30日  
 担当教員名 古川 洋和      回答者数 36 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	30	5	1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	3	1			4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	32	2		2		4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。						36 #####
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	32	4				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	27	6	2	1		4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	32	4				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	29	5	2			4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	30	4	2			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	9	3			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	3				4.9



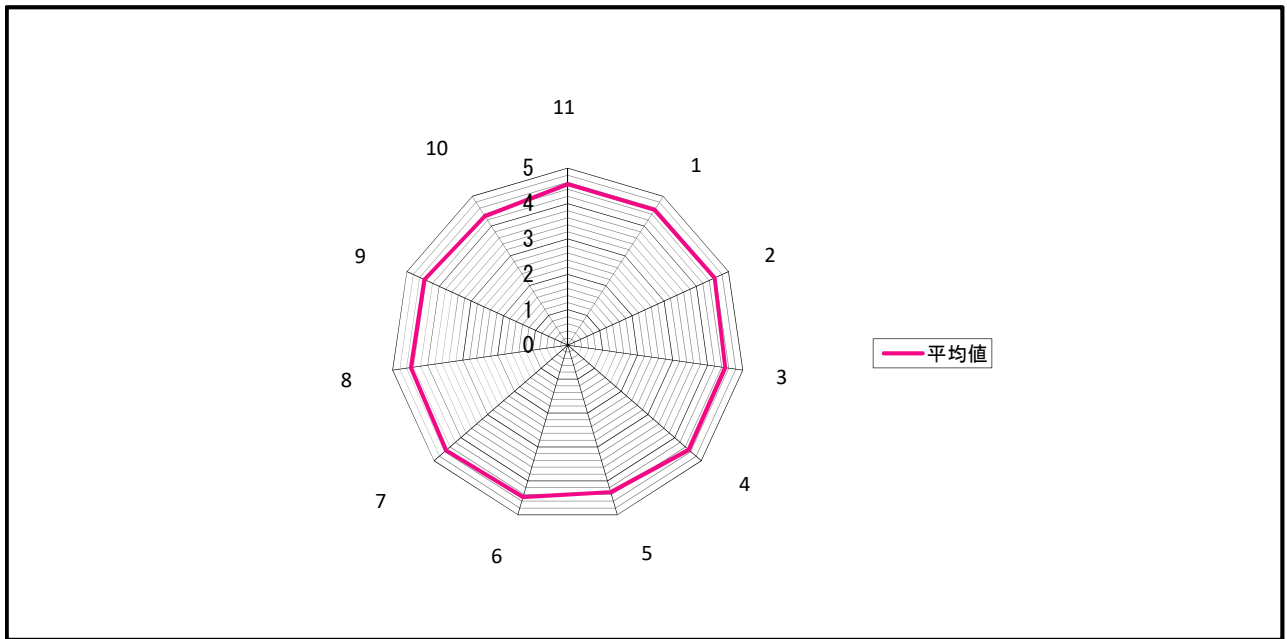
## 教員のコメント

本授業で未実施であるアクティブ・ラーニングに関する項目以外は、概ね高い評定値であるといえる。したがって、授業内容を改善する必要はないと考えられる。  
 なお、自由記述欄の改善が必要な点について「プロジェクタ・マイクの設備不良」に関する内容が毎年みられている。当該事項は、例年、大学院教務係へ改善を依頼しているものの、改善されない状況が続いているため対応をお願いしたい。

# 結果報告書

授業科目名 心の健康教育に関する理論と実践  
 評価実施日 令和2年2月6日  
 担当教員名 吉井 健治, 今田 雄三, 小倉 正義, 山崎 勝之, 内田 香奈子      回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	26	14	1	1		4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	10	1	2		4.6
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	24	15	3			4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	26	12	4			4.5
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	23	15	1	1	2	4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	25	14	2		1	4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	28	11	1	2		4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	25	12	5			4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	16	2	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	12	5	2		4.3
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	29	10	1	1	1	4.5



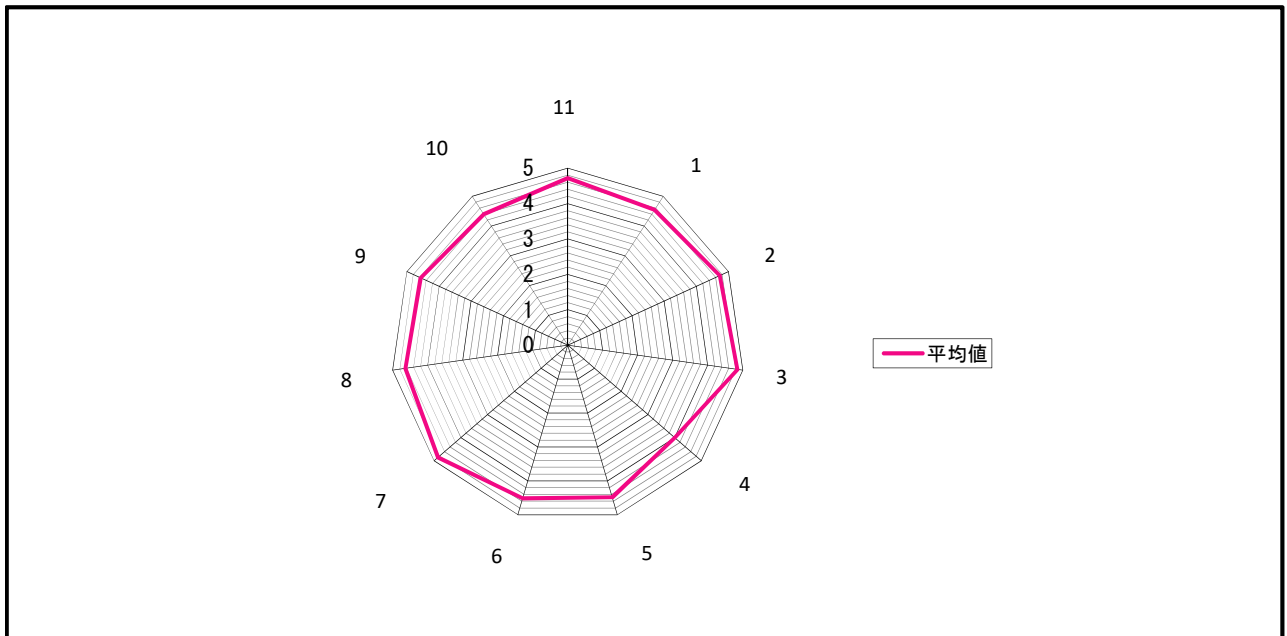
## 教員のコメント

総合評価は4.5と高かった。(1)～(10)の10項目うち、4.5～4.6が8項目、4.3が2項目であり、全ての項目において高い得点が得られた。少し気になったこととして、「(5)成績評価の方法の説明は、適切であった」で否定的な回答をした者が3名おり、今後改善を図っていく必要がある。自由記述では、授業でよかったと思われる点については、「公認心理師に求められる資質、職務について学ぶことができた」、「心の健康教育について各先生が行っている実際の心理教育的活動を自分たちも経験できて勉強になった」、「各先生の専門分野からの講義を受けて、多面的に学ぶことができた」などがあつた。また、「グループでの話し合いがあり、意見交換や発表をする機会があつて良かった」という感想も多かつた。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究 I  
 評価実施日 令和2年2月18日  
 担当教員名 吉井 健治, 葛西 真記子 回答者数 33 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	21	10	1	1		4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	7	1			4.7
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	28	5				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	14	7	9	1	1	4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	23	5	3	2		4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	21	9	2	1		4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	28	5				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	23	8	2			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	7	2	1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	8	3	2		4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	25	6		1		4.7



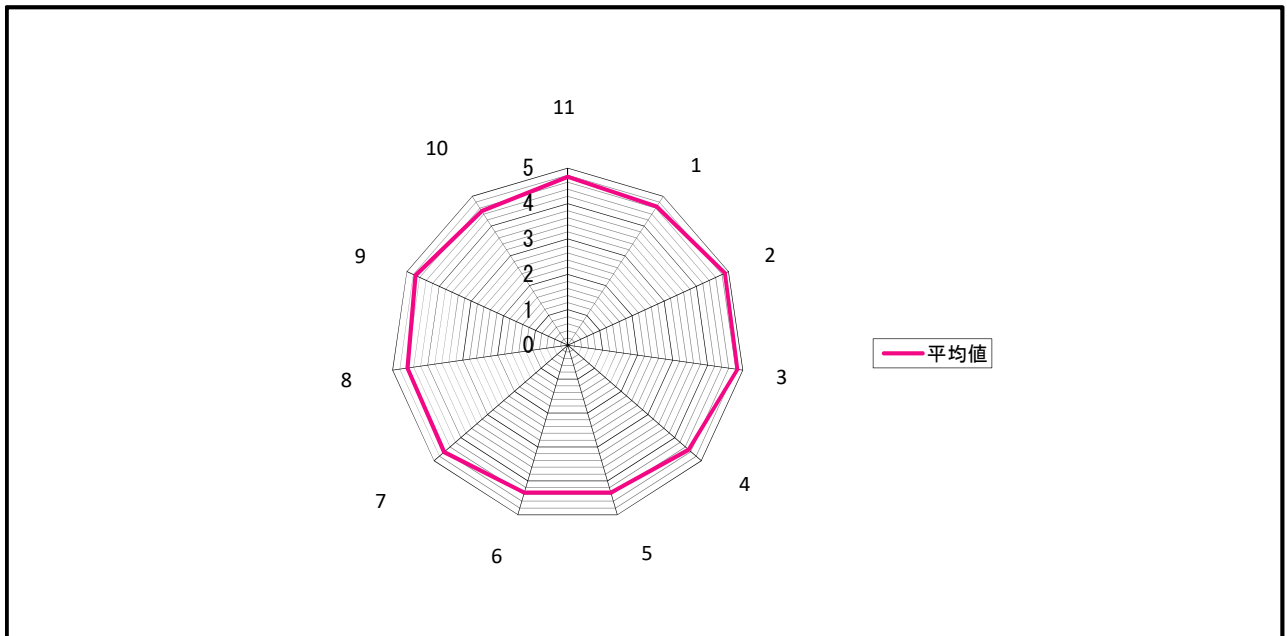
## 教員のコメント

総合評価は4.7で非常に高かった。項目(1)～(10)の10項目のうち8項目が、4.5～4.8で非常に高かった。とくに高かったのは、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」(4.7)、「(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった」(4.8)、「(7)受講生に分かりやすく説明した」だった。比較的低かったのは、「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた」(4.0)だった。自由記述では、授業でよかったと思われる点については、「経験に基づいた具体的な事例を入れて、分かりやすく説明していただいた」、「不登校の子どもにどのように関わり、心理的支援を行っていけばよいのかを具体的に学ぶことができた」など、専門的かつ実践的な学びができたという感想が多かった。他方、授業で改善すべきと思われる点については、「話し合いの機会はあまりなく、考えを共有する場面が少ないように思った」とあり、この点は今後改善を図っていきたい。さらに、授業に主体的・積極的に取り組んだ点については、「自分の実習に取り入れることを考えながら授業に参加した」、「自分の担当ケースと照らし合わせながら考えることができた」などがあり、院生は実習経験と理論的学習が相互影響しながら充実した学習を行っている様子だった。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ  
 評価実施日 令和2年2月12日  
 担当教員名 今田 雄三,川西 智也      回答者数 26 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	18	7	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	3					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	22	4					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	16	6	3				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	6	4	1			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	14	8	3	1			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	17	8	1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	19	5	1		1		4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	19	7					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	6	2	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	6					4.8

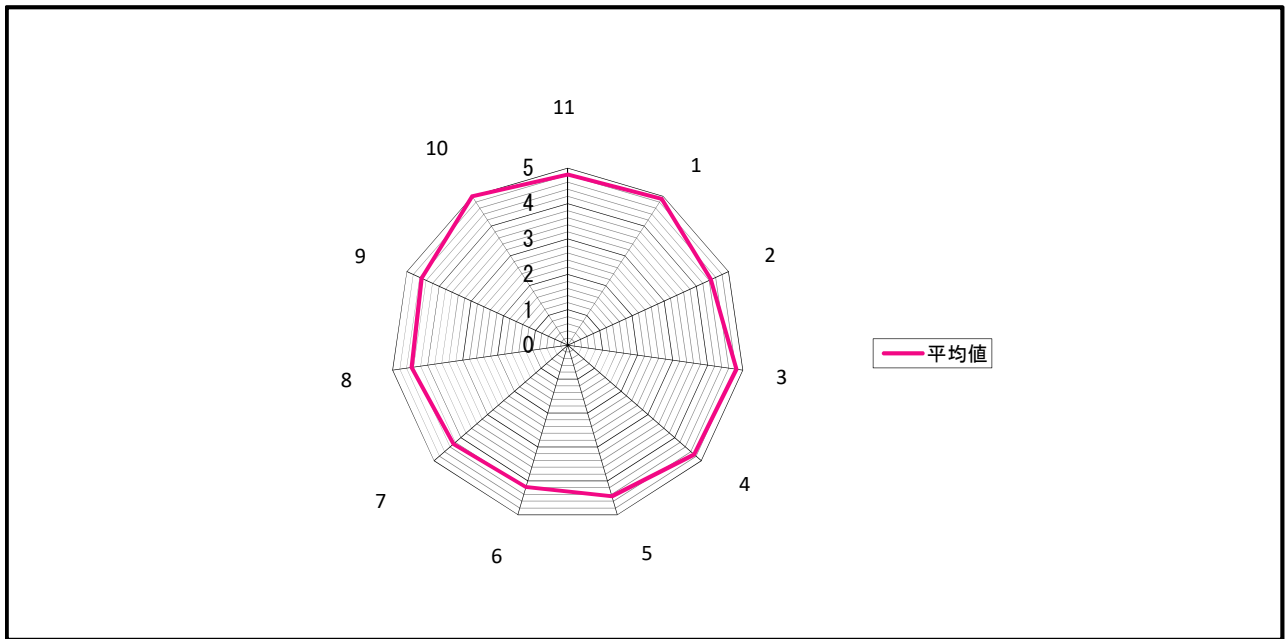


<総合評価>総合評価に関する項目(11)の平均点は4.8であり、また回答者の7割以上が「5」と評定しており、一定の効果は得られたと考えられる。  
 <授業の内容について>授業の内容についての項目(1)~(4)の全てで平均点は4.5以上と非常に高い評価を受けていた。(4)のアクティブ・ラーニングに関する項目についても昨年度の4.2点より4.5点へと向上しており、昨年度の授業アンケートを受けての授業改善の効果が得られたと考えられる。  
 <教員の授業の進め方について>教員の授業の進め方についての項目(5)、(6)の平均点がともに4.3点、(7)~(9)については4.5点以上の評価を得た。昨年度に関しては全項目で4.5点以上であったのに比べ一部の項目の評価がわずかに低下しており、該当する授業評価の方法の説明、および授業の進捗について再検討し、次年度はより適切に実施できるよう修正を図りたい。  
 <あなた(受講生)の授業への取り組みについて>評価項目(10)の平均は4.5点を超えており、受講生はおおむね主体的・積極的に授業に取り組んでいたと考えられる。  
 <自由記述について>自由記述欄では「わかりやすく丁寧に教えて頂いた」「積極的に授業に取り組んだ」といった感想が多く、上記の評価と概ね一致していた。

# 結果報告書

授業科目名 心の発達・教育創造演習  
 評価実施日 令和2年2月4日  
 担当教員名 山崎 勝之      回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4	1			4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10		1			4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	9	1	1			4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4	1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	3	3			4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	3	1	1		4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1	1	1		4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	5				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	2				4.8



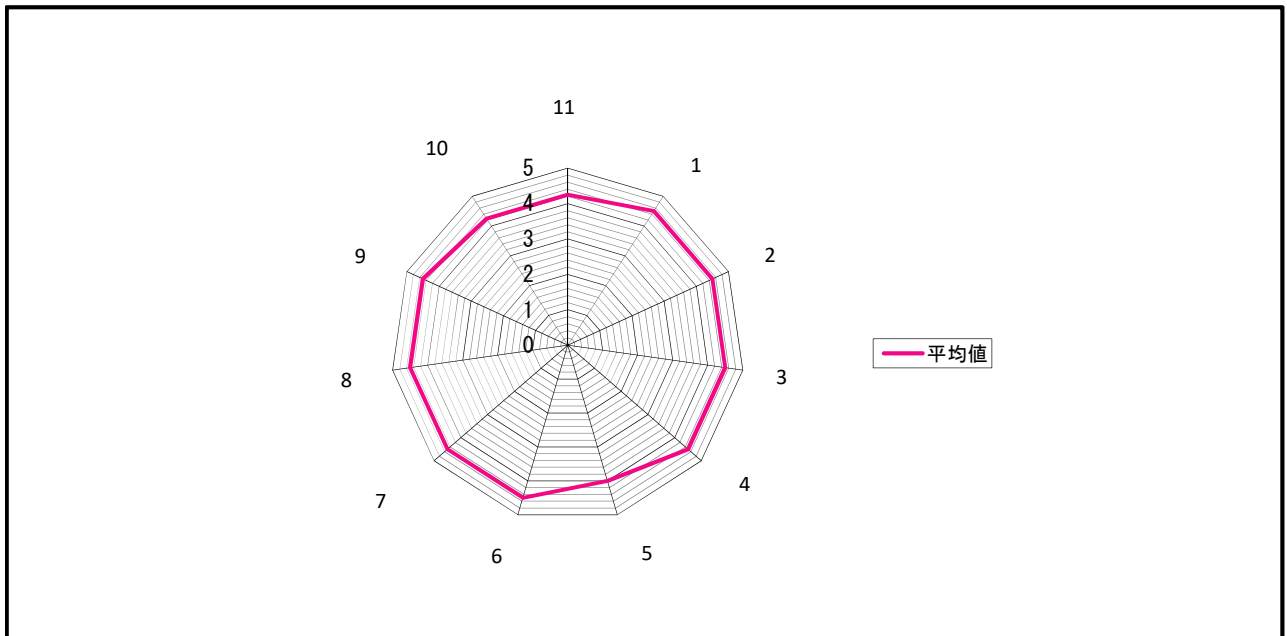
## 教員のコメント

前期の「心の発達・教育創造研究」に続く演習授業として、個人の独創的な考え方、それを公表し主張する力を育成する授業となった。そのため、主体的にかかわることを必須とする課題が多く、受講者の授業にかかる時間と労力は自ずと増加した。しかし、その成果は大きく現れ、授業目的の観点から著しい成長が確認された結果をもたらした授業になったと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 心理教育科学演習  
 評価実施日 令和2年2月10日  
 担当教員名 内田 香奈子      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3		1			4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3		1			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		2			4.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1	1			4.3



## 教員のコメント

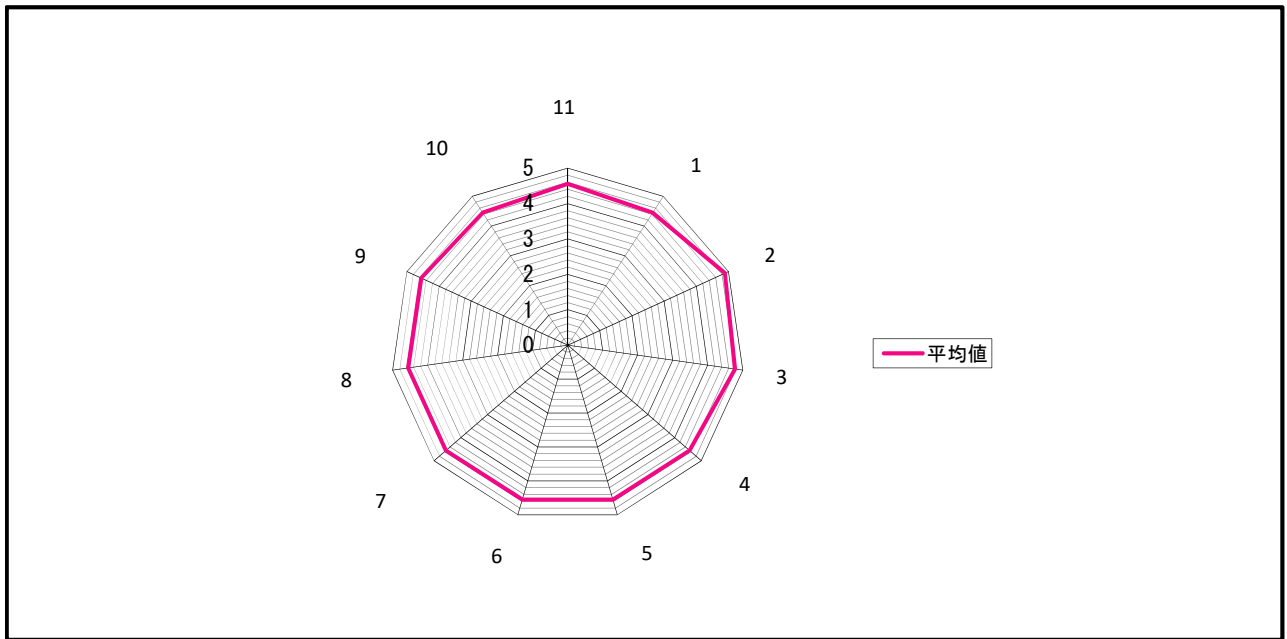
本授業は新課程より新たに開講した科目である。自ら論文を読み、エビデンスを抽出し、その上で簡単な予防教育プログラムを構築できることを目指した授業を展開した。その結果、総合評価が4.3、各項目も4.0以上の評価となった。コメント欄からも実際に教育プログラムを作成できる点や、研究力・実践力ともに向上することが出来る点への評価があった。ただし、成績評価基準の明示に関する得点が低い値を示していた。演習授業のため、課題への取組やグループ活動状況など、総合的な判断になってしまいがちである。次回からはより明確な基準を示したい。また、新規授業であったため、様子を見ながら進めた部分が多かった。そのため、コメントの中にも、指示へのさらなる具体性や、より理論的な解説を知りたかったなどの意見があった。このような学生側のニーズをより把握し、次年度の授業につなげたい。



# 結果報告書

授業科目名 心理・教育科学測定・評価演習  
 評価実施日 令和2年2月10日  
 担当教員名 山崎 勝之,内田 香奈子      回答者数 9 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	5					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	2					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	4					4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	1				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	4					4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	4					4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4					4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5					4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	4					4.6



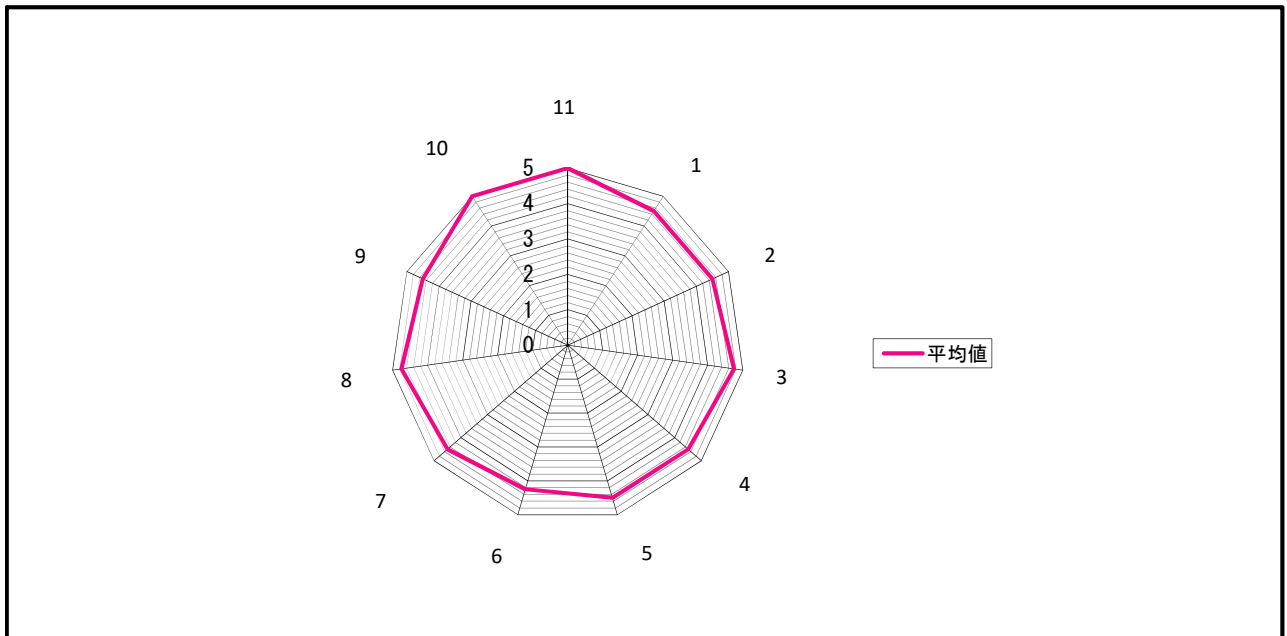
## 教員のコメント

本授業では心理的な評価を行う際に注意すべき最新の心理学の理論的側面と、実際の統計ソフトHADを利用した実践的側面をオムニバス形式で実施した。その結果、総合評価で4.6を、各項目でも4.4以上の評価を得ることが出来た。コメント欄からも毎時間論理的思考を巡らす機会があった点や、修士論文に直結する分析スキルなどの習得が出来た点、さらに統計分析実習の際には上級生をTAとして配置し、サポート体制が組まれていた点などが高く評価されていた。ただし、講義の内容が難しかったという意見がある反面、もう少し統計のことを深く知りたかったなどの意見も見られた。受講生の知識には大きな差があり、今回は知識が未習得な学生(かつ希望者)に対し、事前に補講授業を行うサポートをした。しかし、様々なニーズがあり、この点へできる限り応えることが今後の課題となる。

# 結果報告書

授業科目名 予防教育開発・実施演習  
 評価実施日 令和2年2月10日  
 担当教員名 山崎 勝之,内田 香奈子      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1	1			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3		1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



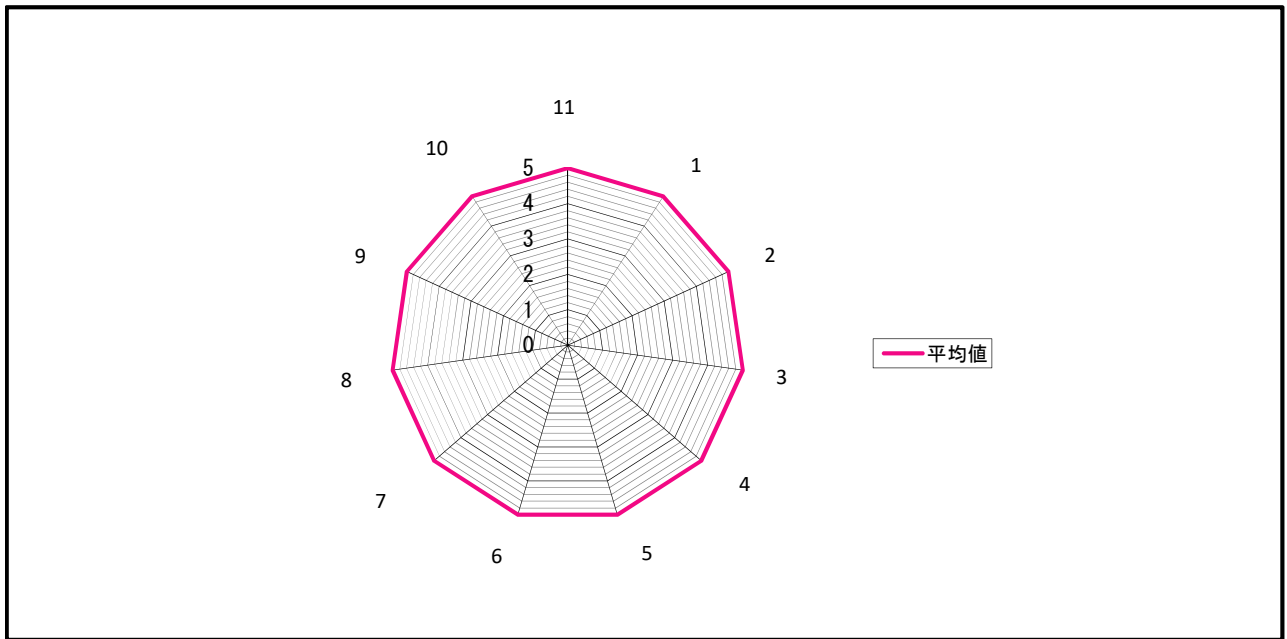
## 教員のコメント

本授業は通年で実施された授業となる。前期は主に予防教育に関する論文や書籍を読み、グループで発表する形式を、後期は教材作成の練習から、実際に模擬授業用の教材を作成し、各自が予防教育の模擬授業発表を行う授業内容をオムニバス形式で実施した。その結果、総合評価で5点の評価を、各項目も4.5以上の評価となった。コメントからも通年を通じて理論から実践面へつなげる授業体系であったことや、教材作成の実践練習を行っている点などが評価されていた。ただし、授業への満足度が高い分、本授業での課題への取組に多くの時間をかけていたことが推察された。次年度からは、よりバランスを考えながら授業を実施したい。

# 結果報告書

授業科目名 障害心理学研究方法演習  
 評価実施日 令和2年2月6日  
 担当教員名 田中 淳一,高橋 眞琴      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



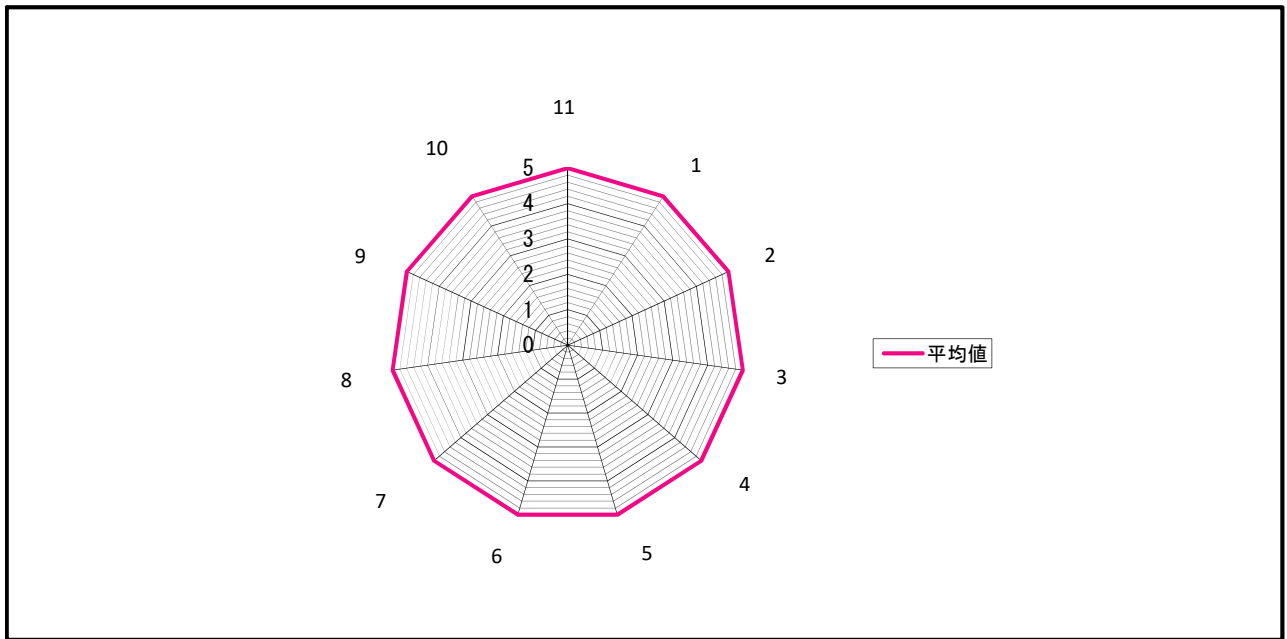
## 教員のコメント

前半は、統計解析、生理学的解析、後半は、質的研究法の内容であった。受講生は、国家資格のある専門的行政職、教諭経験者、留学生であったが、それぞれが熱心に課題に取り組んでいた。概ね、満足できる評価であったと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 障害臨床学特論  
 評価実施日 令和2年2月4日  
 担当教員名 田中 淳一,高橋 眞琴      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



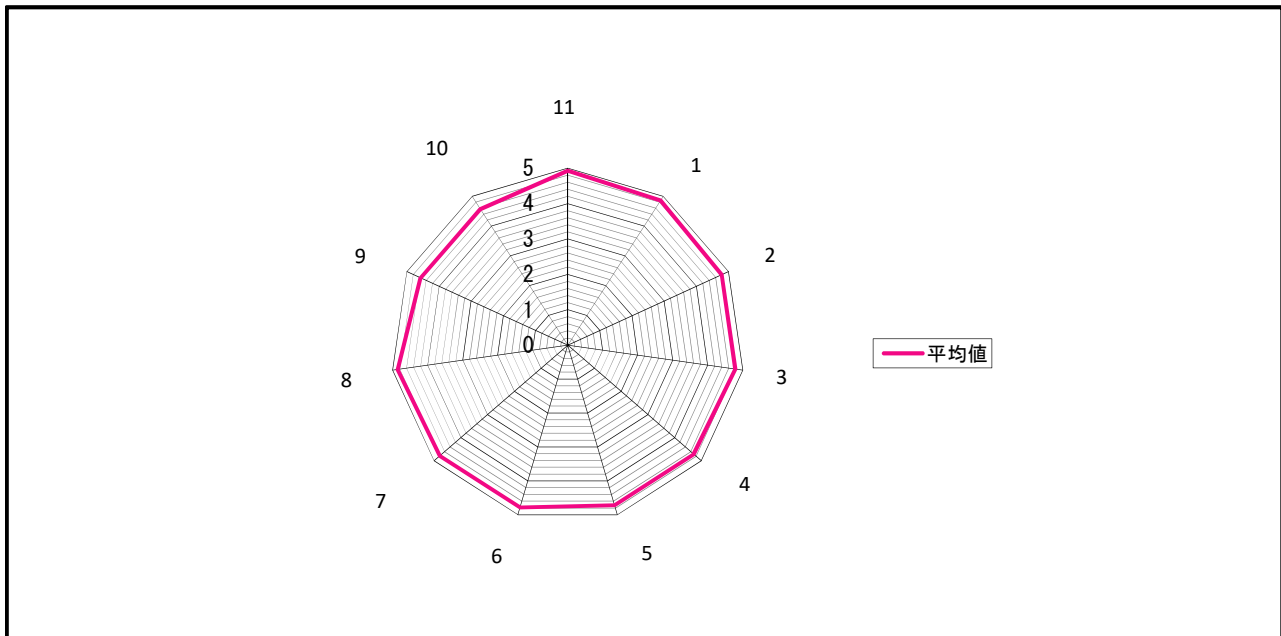
## 教員のコメント

本授業では、障害のある人との臨床的な関わりについて、各種手法に関連するワークショップを組み込んだ。受講者は、国家資格のある専門的行政職、教諭経験者、留学生であったが、それぞれが自身の専門分野に沿って、熱心に課題に取り組んでいた。概ね、満足できる評価であったと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 現代教育人間論  
 評価実施日 令和2年2月6日  
 担当教員名 太田 直也,谷村 千絵      回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	2				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	3				4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	3				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	4				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2	1			4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11	3				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	3				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	2				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	4	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4	1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	1				4.9



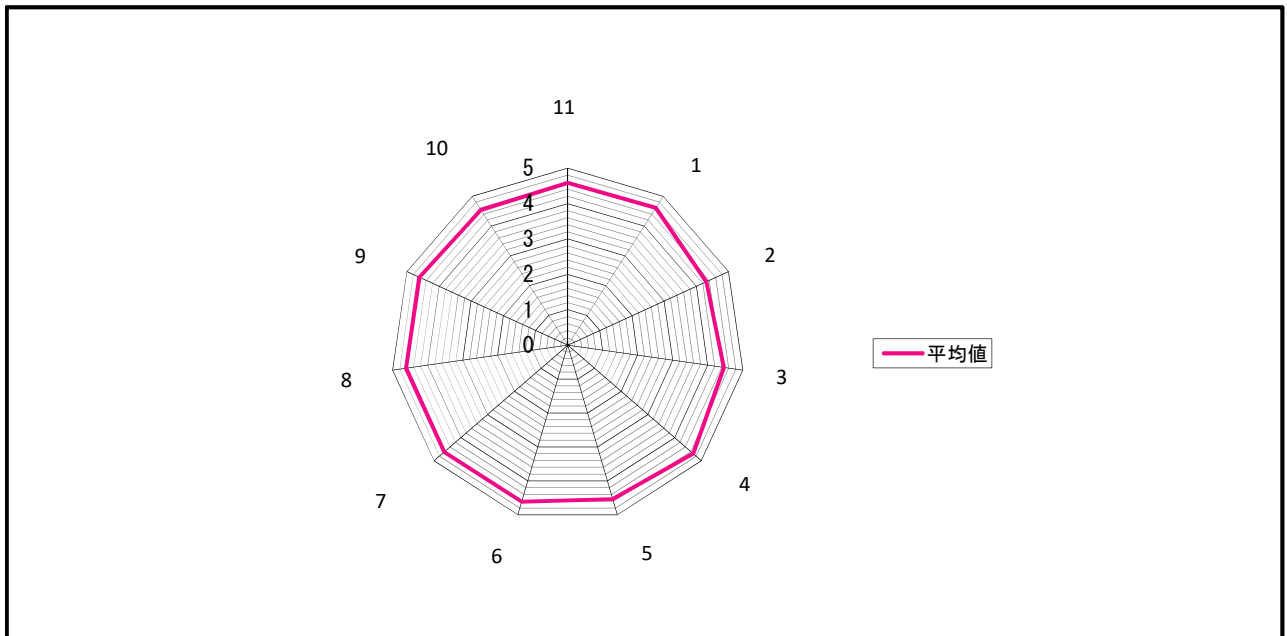
## 教員のコメント

高い評価を得たことを有難く思う。授業は教育にかかわる難解な問題を哲学的に語り合うものであったが、受講者の熱意により期待以上の成果を挙げられたと思う。FDの公開授業として中間討議の様子を見ていただいた折に、参加した多くの教員からもそれなりの評価を頂き、大学院に相応しい授業が展開できているという自信を持つことができた。

# 結果報告書

授業科目名 人間と環境 I  
 評価実施日 令和2年2月7日  
 担当教員名 田村 和之      回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3	3				4.3
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	7					4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	10	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4	1				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	3	1				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	5					4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	5					4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5					4.6



## 教員のコメント

授業では学生に様々なトピック(自分の住んだことのある地域の特産品・伝統文化など)を3つ選んでもらい、それらをどのように教科横断的な教材として使うか、またどのようにSDGsの17の目標とつなげるかを考えパワーポイントを使って発表してもらった。また、発表後は全員で質疑応答やどのように発表やその内容を改善したら良いかをディスカッションして、学生中心のアクティブラーニングとなるように注意しながら授業を行った。

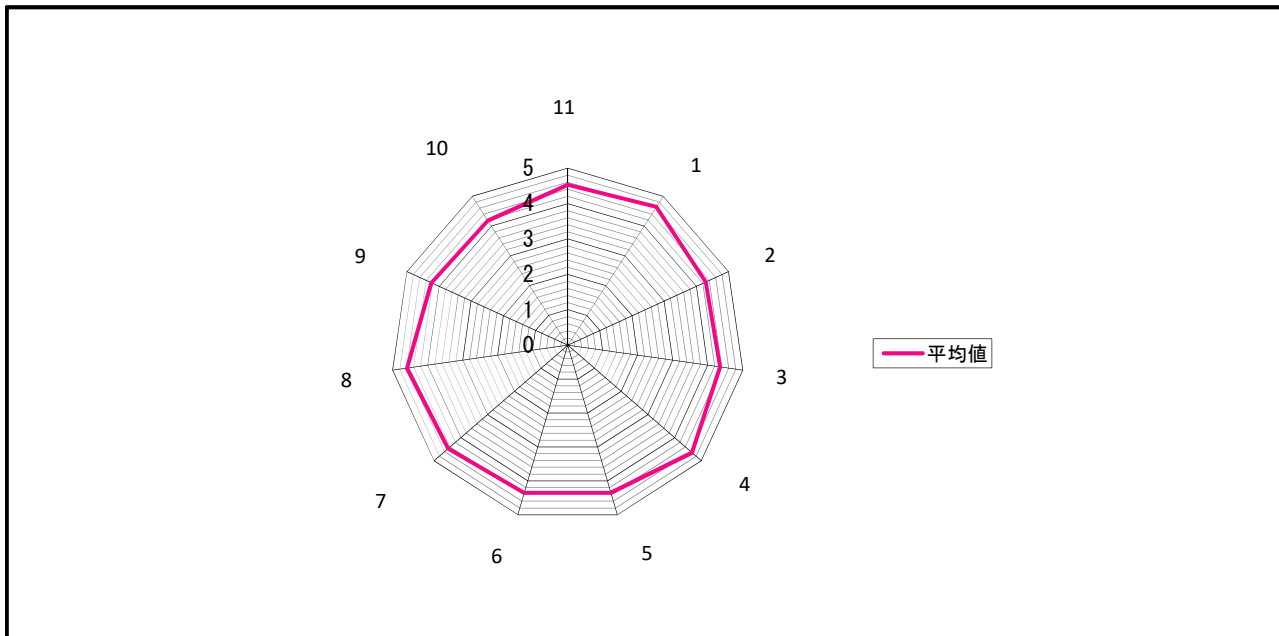
ただ、本年度は受講生の人数が増えたため、昨年度までは3回の発表をしてもらっていたが、2回しか発表してもらうことができなかった。また、13人が2回しか発表しなかったため、自習(教材についての調べ学習・発表資料の作成)となる回数が増えてしまったのは反省点である。

2020年度はもう少し、アクティブラーニングに関してもう少し工夫してもっと学生の意見が出るように心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーション I  
 評価実施日 令和2年2月6日  
 担当教員名 谷村 千絵, 金野 誠志      回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	4	1			4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	6	3			4.3
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	7	2			4.4
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	12	4	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	5	3			4.4
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	5	3			4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9	7	1			4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11	5	1			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	5	4			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	8	3			4.2
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	6	1			4.5



## 教員のコメント

概ねよい評価を得ている。テキストに指定した本が絶版となっていたため、大学の書店で売り切れてしまった後、入手しにくい学生がいた。次年度は、コピーを事前に準備したい。

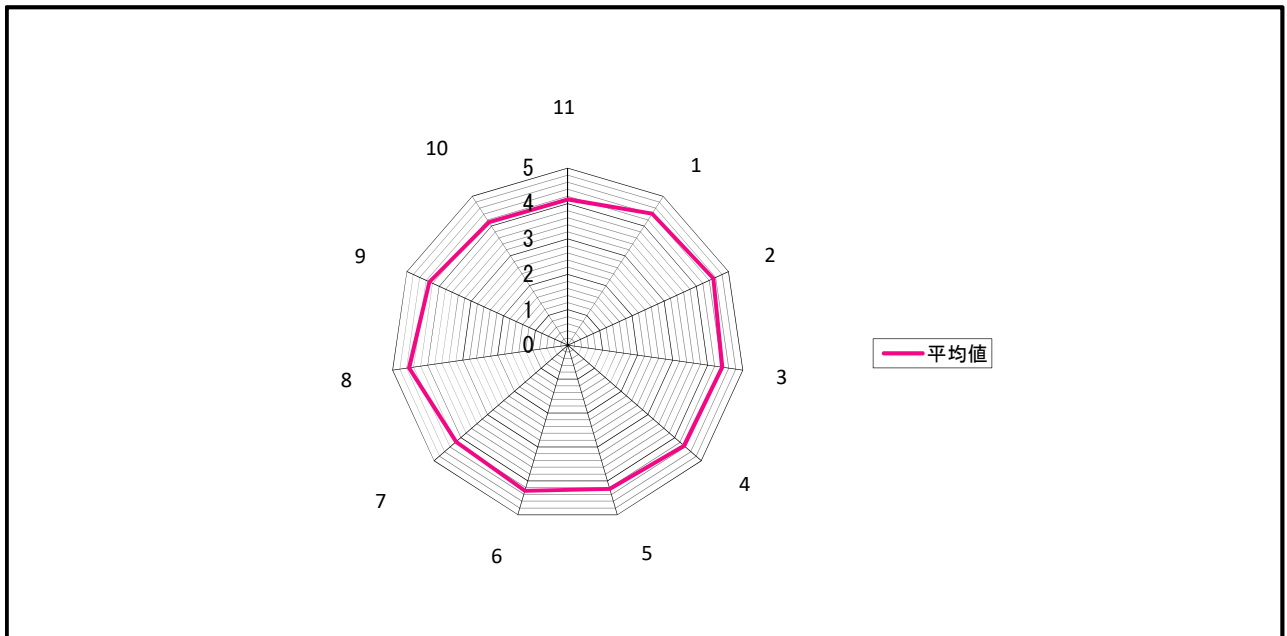
本来、文献購読の授業では、学生が授業時間外でテキストを読んでくるものであるが、本学学生の特性に応じて本授業では授業内で読む時間を設けている。この授業では、約3回に1回のペースで、テキストを読む時間を設けたが、「授業時間内で読む時間が確保されていてよかった」「全員平等だった」という意見がある一方で、「読む時間があるのはよかったが配分が長すぎる」という意見もあった。留学生の受講も多かったため、時間的ゆとりがとれるよう配慮を行なったためと思われる。次年度以降も、受講生の状況をみてペース配分を考えたい。

その他の記述では、「本を読んでディスカッション、初めて行なった」「他者の意見を聞けてよかった」「話合いの時間がたくさんあってよかった」という意見が見られた。

# 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅡ  
 評価実施日 令和2年2月13日  
 担当教員名 金野 誠志,谷村 千絵      回答者数 17 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	4	3				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	3	1	1			4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	4	1		1		4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	4	2	1			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	6	2	1			4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	10	4	2		1		4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	4	3		1		4.2
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	3	1	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	6	1		1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4	3		1		4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	4	2	1	1		4.1



## 教員のコメント

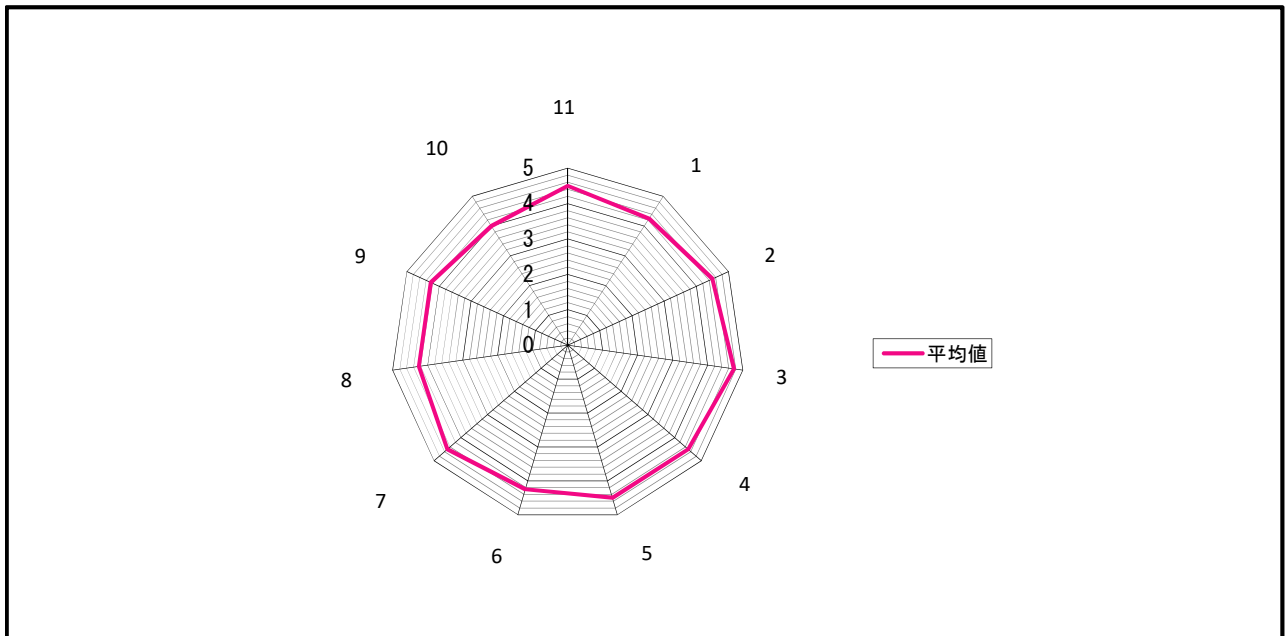
概ね高い評価となっていると考える。本授業では、人間のよりよい生き方に関与しているか、ワークショップ型の授業を多用した。その点が、評価されたことと考える。「評価選択」で、1および2を選択した院生が1名いることが課題である。そもそも、全体の傾向からして、評価尺度そのものを勘違いして記入したことも考えられるが、そうでないとしたら、主体性のなさやレディネスの低さが考えられる。この点では、授業の開示時期、オリエンテーション等で、授業内容や進め方についての周知をさらに丁寧に行いたい。



# 結果報告書

授業科目名 国際教育演習  
 評価実施日 令和2年2月3日  
 担当教員名 小澤 大成,石村 雅雄,近森 憲助      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1	1			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		1		4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



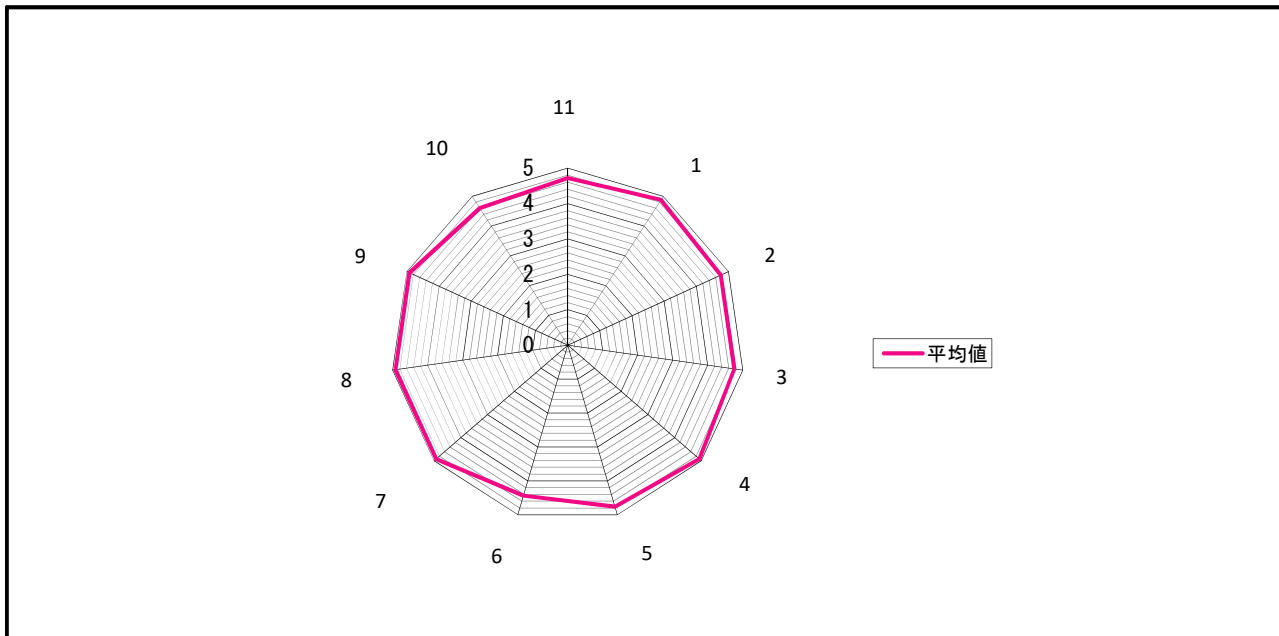
## 教員のコメント

総合評価4.5とますますの評価であった。「一人一人が持つ国際問題に対する課題を取り上げることができた」と課題を参加者で深めていくことができたことがうかがえる。今後も同様の授業展開をしていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語語彙論  
 評価実施日 令和2年2月10日  
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 25 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	1	1			4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	3		1		4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	21	3		1		4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	23	2				4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	2	2			4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	16	5	3	1		4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	23	2				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	23	2				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	2				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	7		1		4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	3	2			4.7



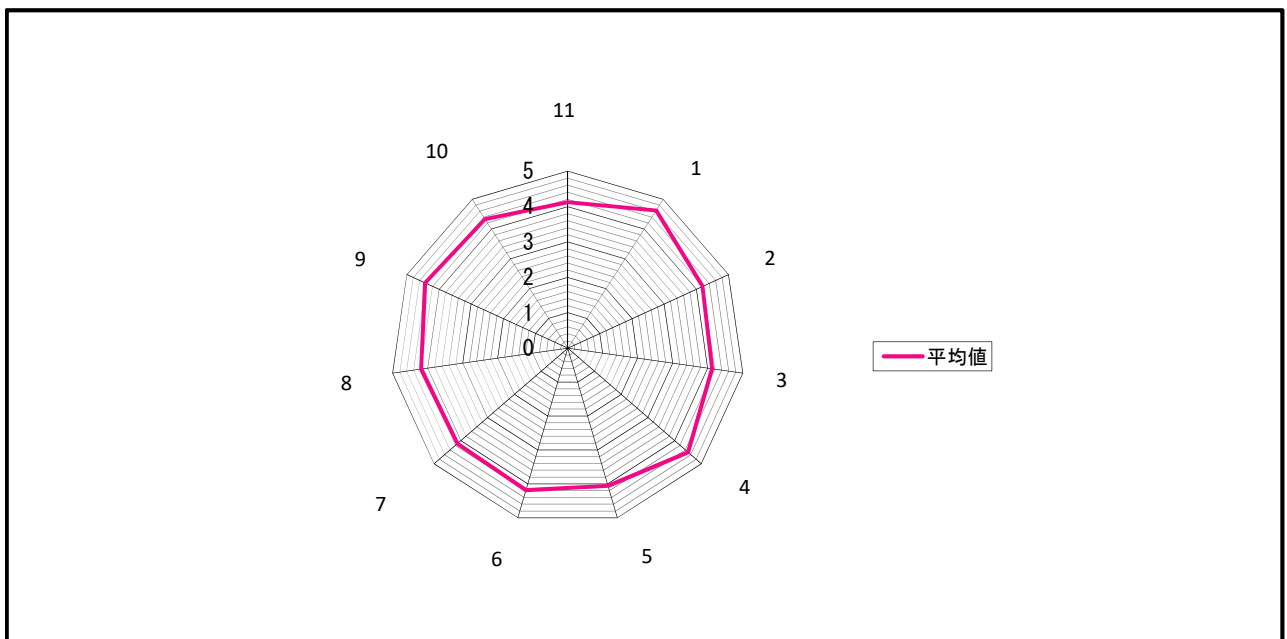
## 教員のコメント

本授業では、日本語語彙のうち、特に、日本語教師としての基礎的事項、および、日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「評価内容、スケジュールが明確」、「授業の中でグループの話し合いがあり、他のコースの人や留学生とも話すことができた。」、「授業前半で学習したことを用いて発表をしたことで、内容をよく理解できた点よかった。」など、授業運営の方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「グループ研究で4人のグループではやりにくいと思われる。振り返りの時間を少し短くし、授業内容を増やしていいのではないか。」、「課題であった調査・発表は難易度が高めで、留学生にとっては大変難しいようであった。グループの中で日本人と留学生の負担が違うのは仕方がないことだが、評価等を不安に思った。」、「後半の発表について、もう少し学術的な要素や観点が含まれているともっと良かったと思う。そのための発表基準等を設定すると良いのではと思った。」など、学期の最後に行った発表会のあり方について、様々な観点から改善(再考)を求める声が出ていた。今後の参考としたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育学演習  
 評価実施日 令和2年2月18日  
 担当教員名 廣田 知子      回答者数 16 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	4	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	4	3	1			4.2
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	5	3	1			4.1
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	4	2				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	5	1			4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	4	3	1			4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	4	5				4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1	6				4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4	3				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5	3	1			4.1



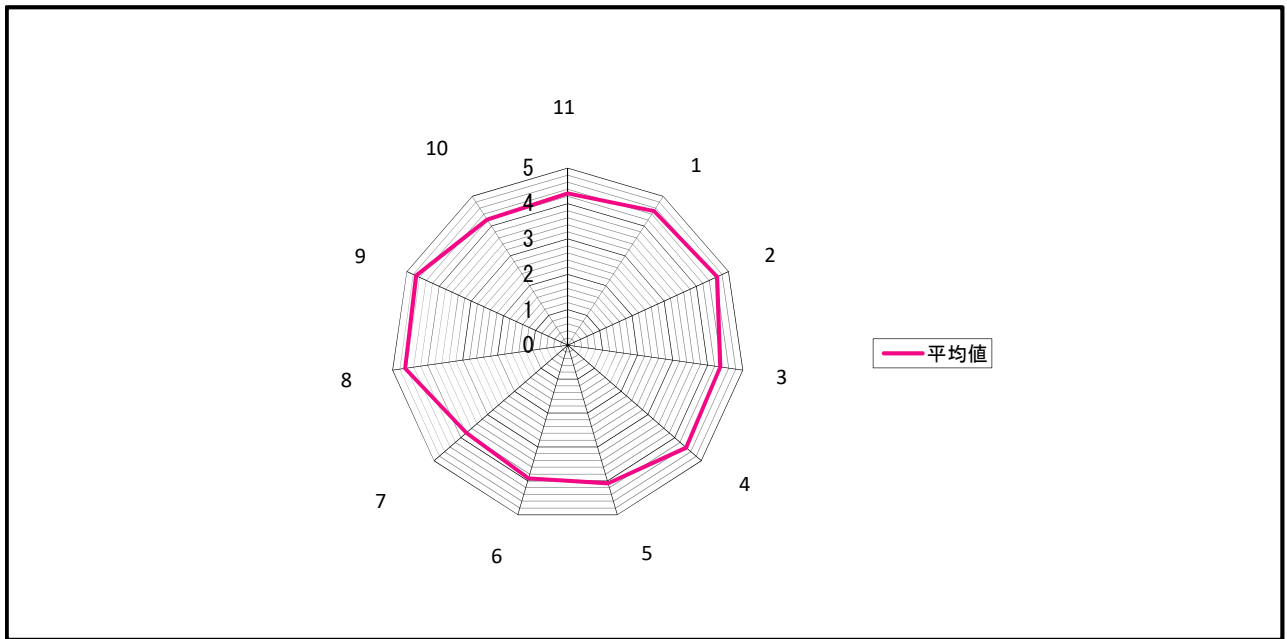
## 教員のコメント

発表主体の授業にしたところは良かった点だが、発表の質のばらつきがあり、また人数の点で一人一人の発表時間が違ってしまったところは、反省点として残る。今後、受講人数がますます増えていくと予想されるので、一人一人の発表の質をどのように上げていって、平等な時間の確保をどのようにスケジュールの中に組み込むかということを検討していく必要がある。またAJALT資料が古いという指摘があったので、違う資料を使つての発表も含めた演習プランを立てることも考えたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育法演習(日本語教育グループ実習)  
 評価実施日 令和2年1月30日  
 担当教員名 廣田 知子,田中 大輝 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4		1		4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	5				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	5	2			4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	2	3			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4	1	1	1	4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	5	3		1	3.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	5	2		3.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	5				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	2	1		4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	8	1			4.3



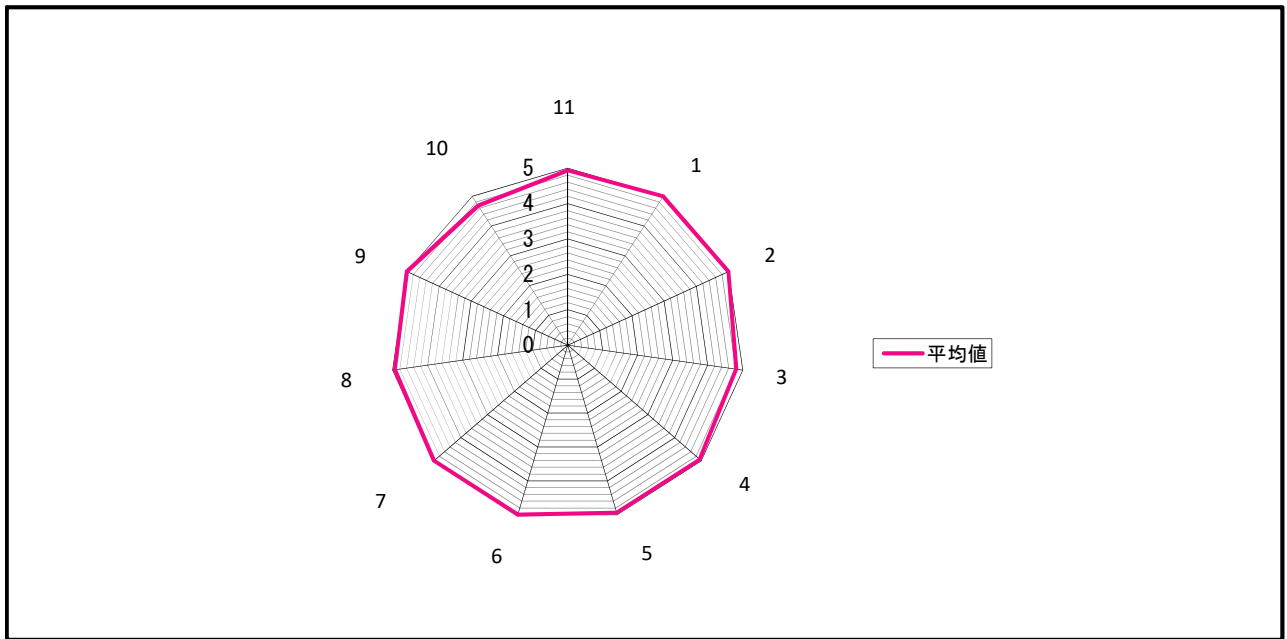
## 教員のコメント

新カリになって、今までの蓄積がない授業であったので、準備不足は否めなかった。アンケートの自由記述のところには、発表が3回になって大変だったという受講生の真の訴えも聞かれたので、次は少し余裕のある発表計画や模擬授業展開を考えたい。また、評価法が途中で変わってしまったのも、不安を与える原因となったと思う。何事も最初にきちんとプランニングをして、説明を尽くすことを心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語Ⅲ  
 評価実施日 令和2年2月4日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16					5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	13	3				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	15	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	16					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	16					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	5				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	15	1				4.9



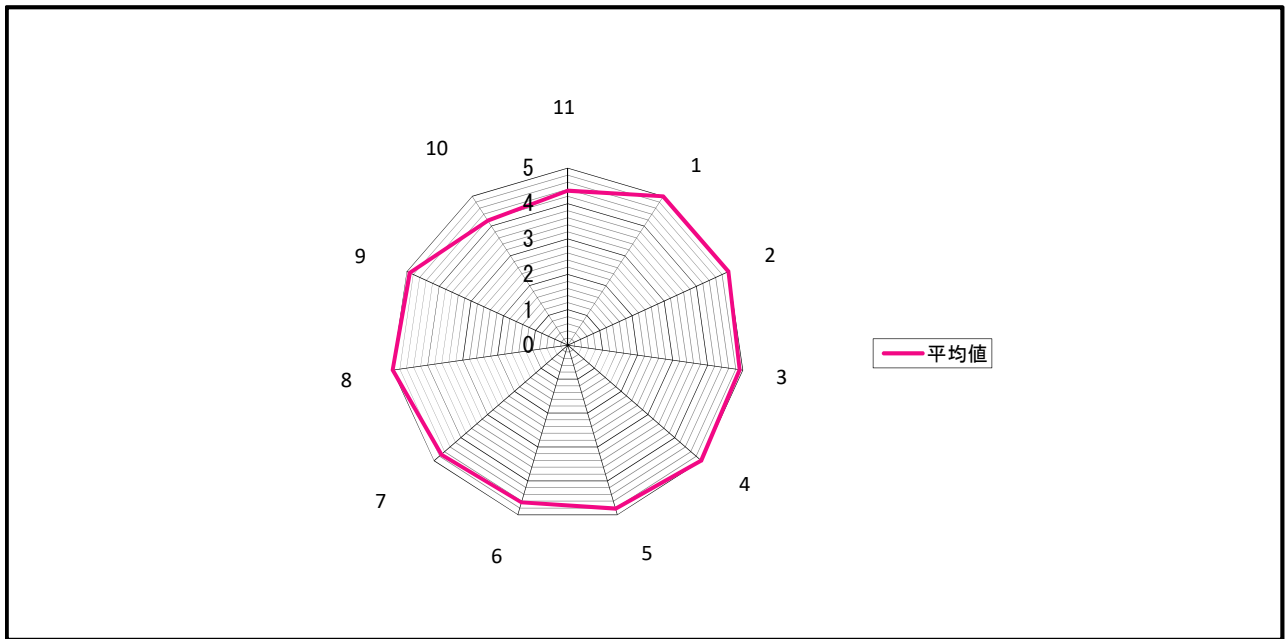
## 教員のコメント

本授業では、大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である、「教員に対するメールで、依頼・謝罪・誘い・お礼などを適切に伝達できる力」および「自分の経験や考えをスピーチとして適切に表現できる力」などを養うことを目的とした。受講者数は5名(＋聴講12名)であり、授業評価アンケートの自由記述の項目では、「先生にメールを書くときの注意点、言葉づかいなどをたくさん教えてくれましたので、今は上手にメールを書けるようになりました。」「スピーチを練習することができて、うれしい限りです。書く力が重要だけど話す能力はもっと重要だと思います。…(略)…いろいろな人の話を聞いて、中国や、タイや、日本などの違うところを聞いたから、すごく勉強になりました。」「メールの書き方とかスピーチの仕方など、基礎的な知識を学んだ上で能力を育てることは非常に良かったと思います。」など、授業の内容や方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「もっと日本の文法と文章を書くの形式、使い方を勉強したいです。例えば、上司と先生ではなく、違う人にメールを書く時、どのような内容、フォーマットを使えばいいですか。」「スピーチについて、もっと多いの知識が知りたいです。」「できれば、いいスピーチのビデオを見たかったです。」など、授業内容の深度や理解を深めるための工夫等について改善(再考)を求める声も出ていた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた(N1レベル～N4レベル)ため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。(注:引用部は原文ママである。)

# 結果報告書

授業科目名 日本語IV  
 評価実施日 令和2年2月10日  
 担当教員名 廣田 知子      回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	4				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	3				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	11					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5	2			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1		2		4.4



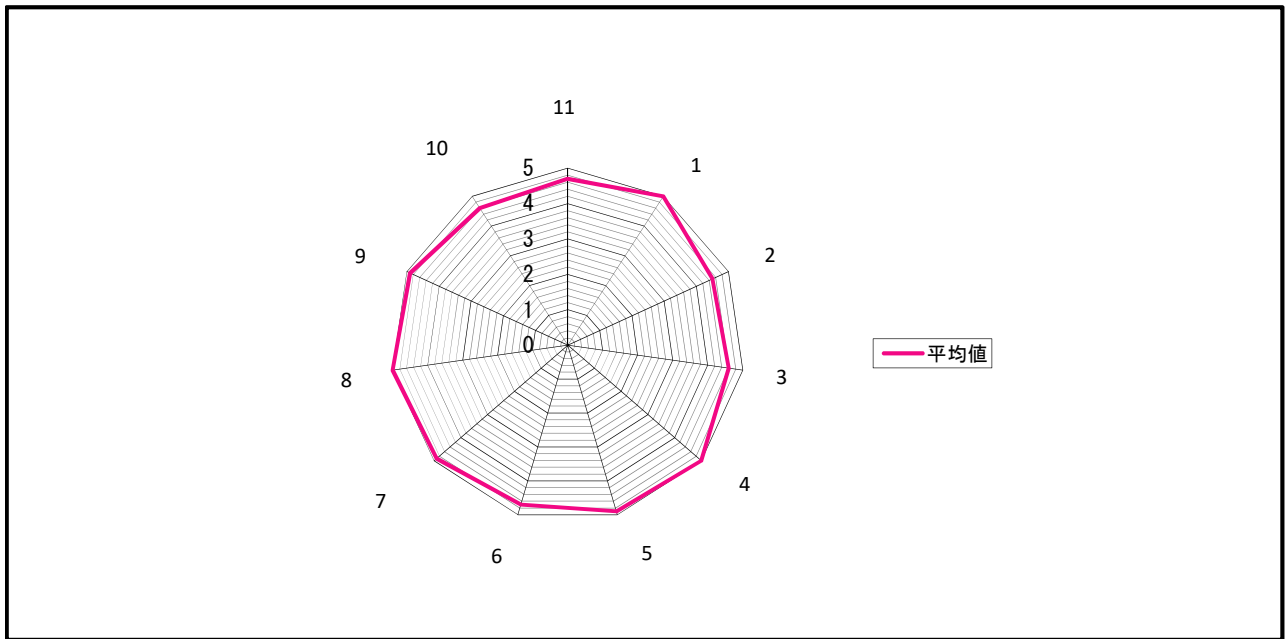
## 教員のコメント

学部の特例聴講学生の混じっているクラスなので、レベルを定めるのが難しかった。日本語レベルが低い学生にとっても、高い学生にとっても、中途半端で満足のものにはならなかったかもしれない。レベル差のあるクラスでの教師自身の話すスピードのコントロールも大切だということを肝に銘じておきたい。聴解教材は、よく考えて作られているので、来年度も使用したいと思っている。それを発展させる工夫を怠らずに、楽しい授業、達成感のある授業を目指したい。

# 結果報告書

授業科目名 日本事情・日本文化  
 評価実施日 令和2年1月30日  
 担当教員名 廣田 知子      回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	1			4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	2	1			4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	1	1			4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1	1			4.7



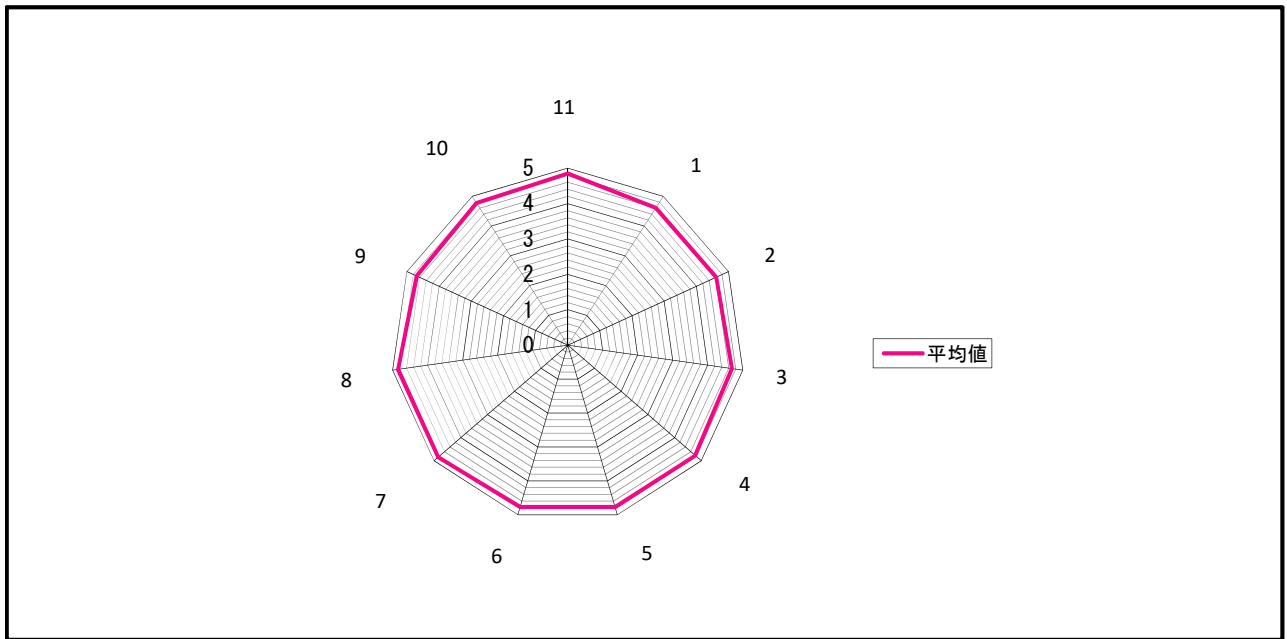
## 教員のコメント

2名の教員で担当したが、それぞれの持ち味を生かした授業展開ができたと思う。私が担当した「短歌」の授業が良かったという記述もあり、うれしく感じた。来年度も引き続き、「短歌」の鑑賞と創作は行いたいと思っている。グループで発表することで、楽しさも味わっているようだが、留学生中心の授業なので、日本人にとっては、内容が広く浅くで終わってしまっていて、物足りなさもあったようだ。今後、その折り合いをどのようにつけていくかが、問題になると思う。2名の教員で、検討を重ね、いい授業となるよう努力したい。

# 結果報告書

授業科目名 言語コミュニケーション演習  
 評価実施日 令和2年2月13日  
 担当教員名 眞野 美穂                      回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3	1				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10	2	1				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	1	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	1	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11	1	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	12		1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11		2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2					4.8



新しく修士課程に開講された授業であったため、内容と進め方に不安があったが、授業評価結果からは、概ね高い評価を得られ、少し安心することができた。演習科目であるため、できるだけ具体的な事例を、半分以上を占める留学生と共に検討することを中心に授業を計画したことで、皆が積極的に取り組めたようである。  
 自由記述からも、積極的にディスカッションに関わった様子が見て取れた。英語で書かれたテキストの一部をリーディング課題としたことは、少し負担になった用である。この点は今後改善を検討したい。